



こころみ

2009. 1. 21

担当：教頭会

思考力・判断力・表現力をはぐくむために

各教科等における言語活動の充実について考える

新学習指導要領では、児童生徒の思考力、判断力、表現力をはぐくむために、知識・技能を活用する学習活動の実施を求めています。学習活動の基盤である言語に関する能力を重視し、「言語環境」を整え、「言語活動の充実」を具現化したいものです。

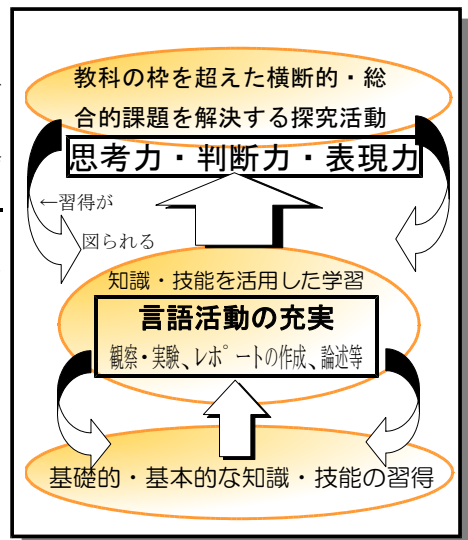
国語科においては、それぞれの領域に記録、要約、説明、論述といった言語活動を例示するとともに、各教科等においても教科の特質に応じた言語活動の充実について示しています。

このあとの国語、数学、理科の学習展開例の中の言語活動に線を引いています。

下線を引いた言語活動が①から③の何をねらっているのかを明らかにして、全校体制で取り組みたいものです。

……言語活動を充実させるねらい……

- ① 知識及び技能の確実な習得
- ② 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの育成
- ③ 主体的に学習に取り組む態度の養成



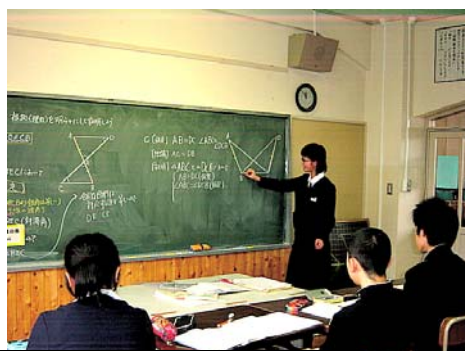
○小学校の言語活動例

(学習展開例) 小5国語 単元名：目的に応じた伝え方を考えよう 教材名：工夫して伝えよう～われらが〇〇発信局～	
学 習 活 動	何をねらい、どんな言語活動をしているか
1 本時の課題と流れを確認し課題解決の見通しをもつ 願いや思いを分かりやすく伝えるための話の組立てと言葉遣いについて話し合おう。	・本時の課題と学習の流れの説明を聞き、疑問に思う点を質問しながら、自分の考えをもち課題解決の見通しをもつ。
2 モデルグループの発表を聞いて、グループごとに話の組立てと言葉遣いについて話し合う。	・分かりやすく伝える工夫を見出したり、自分の考えと比較して共通点や相違点を示したりしてグループで説明し合い、グループとしての考えを話し合ってみよう。
3 話し合ったことを発表し、意見を共有する。(以下、略)	・グループでまとめた考えを説明し合い、願いや思いを分かりやすく伝えるための話の組み立てと言葉遣いについて話し合いをする。
言語活動例 第5学年及び第6学年 「話すこと・聞くこと」 新学習指導要領から ア 資料提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。	

○中学校における言語活動例

〈学習活動例〉 中2 数学 単元名：平行と合同
 [根拠となることがらを明らかにして図形の性質を証明する学習活動]

仮定や既習の図形の基本性質「平行線と角の関係」を根拠にして、2つの三角形が「合同」であることの証明を、説明する。自分の考えと比較しての共通点や相違点を示したり、新たな考えを出したりして話し合いをする。



〔数学的活動〕 新学習指導要領から

(1)ウ 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道を立てて説明し伝え合う。

〈学習展開例〉 中1 理科 単元名：大地の変化

課題：火山の違いと噴出物(溶岩、火山灰)にはどのような関係があるだろうか

学 習 活 動	期待される言語活動	思考力・判断力・表現力
1 二つの火山の火山灰と溶岩の違いから問題を見出し、課題を把握する。	・噴出した火山の溶岩の粘性の違いと火山灰の性質(鉱物の種類と割合)を関連付けて予想したことと観察の計画を <u>説明する</u> 。 1、2 ・観察の結果や、結果を根拠として関連付けたことを <u>説明したり</u> 、疑問点を <u>質問したり</u> して考察を明確にし <u>レポートを作成する</u> 。 4、5、6	・情報の収集・整理 ・比較・分類 ・分析、統合、推論 【思考力】 ・論証・説得【思考力】 ・根拠を明確にして話す・書く【表現力】
2 予想をもち、観察を見通す		
3 二つの火山灰を顕微鏡で観察し結果を記録する		
4 観察の結果をもとに溶岩の粘性と火山灰の性質の関連についてグループで考察する		
5 全体で話し合う。		
6 課題解決したことをレポートにまとめる		



第3指導計画の作成と内容の取扱い 1(2) 新学習指導要領解説から
 観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する学習活動

◇小中共通の課題 …根拠を明確にして話す・書く・結論を導き出す…

大館市の全国学力・学習状況調査結果の概況から

3年数学B

小学校と同様に言葉や数、式、図、グラフなどを用いて自分の考えを記述したり、説明したりする学習活動を充実させる必要がある。その際、国語科で培った能力を基本に、言語活動を充実させるなど国語との関連を生かした指導が必要である。

課題克服に向けて

- 根拠を明確にして考えを伝える力を付けるために全ての教科等で言語活動の充実を図る。
- 授業の中で、根拠が不明確な場合は明確な根拠を求める切り返しの発問等をするなど指導方法を改善する。
- 教師が正しい言葉遣いをしたり、正しい文字で丁寧に書いたりする。
- 教師と児童生徒、児童生徒相互で適切な話し言葉で授業を行う。
- 言語活動の実践的研修を行い、確かな授業力の向上を目指す。